

第 1 8 4 回

地震予知連絡会資料

2 0 0 9 年 1 1 月 2 0 日



京都大学防災研究所

第184回地震予知連絡会提出資料

目 次

I. 近畿地方北部の地殻活動

- 1. 丹波山地における微小地震活動の静穏化 1
- 2. 地殻変動連続観測のトレンド変化 2

II. 地殻活動総合観測線の観測結果 4

近畿北部の地殻活動 ～丹波山地における微小地震活動の静穏化～

京都大学防災研究所地震予知研究センター

大阪府北部から京都府中部、琵琶湖西岸にかけての丹波山地は微小地震活動が定常的に活発な地域である。丹波山地における微小地震発生数は、2003年1月末ごろを境に突然それ以前の約7割に低下し、その静穏状態は長期にわたり継続していた。2009年5月以降、大阪府北部などで地震活動が活発化し、当該地域における地震発生レートは、188.2個/月と静穏化以前並みに復帰している。ただし、2007年半ばに見られた短期の活発化が、やがて元の静穏化後のレート（約120個/月）に戻った例もあるので、引き続き経過に注目する必要がある。

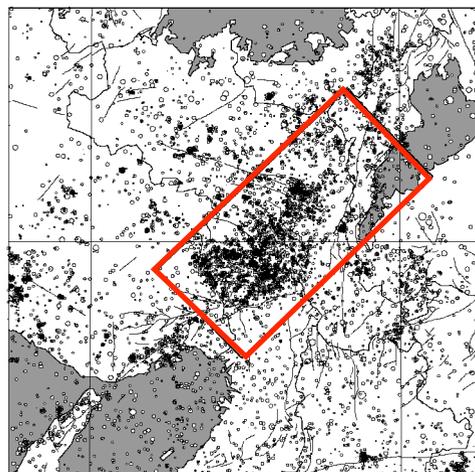


図1：近畿地方北部の微小地震活震央分布と、解析範囲（赤色矩形内）。

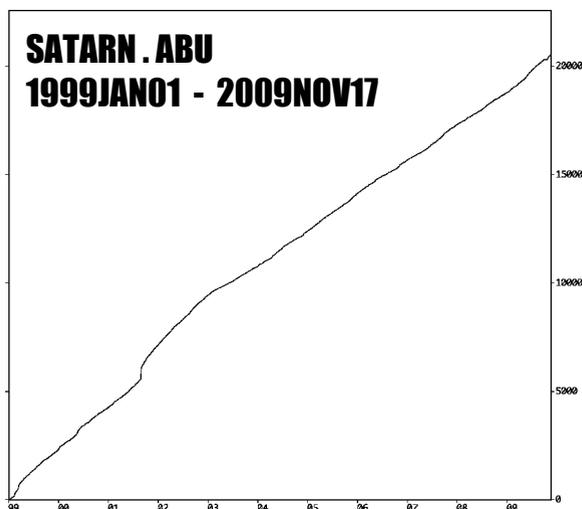


図2：1999年～2009年11月17日、図1の矩形内の積算発生数。

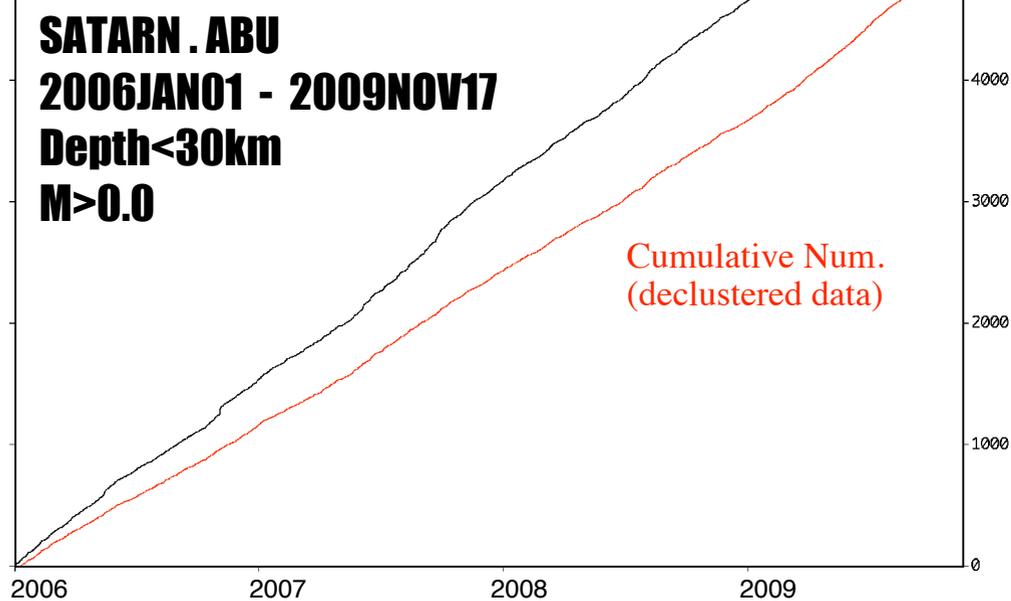
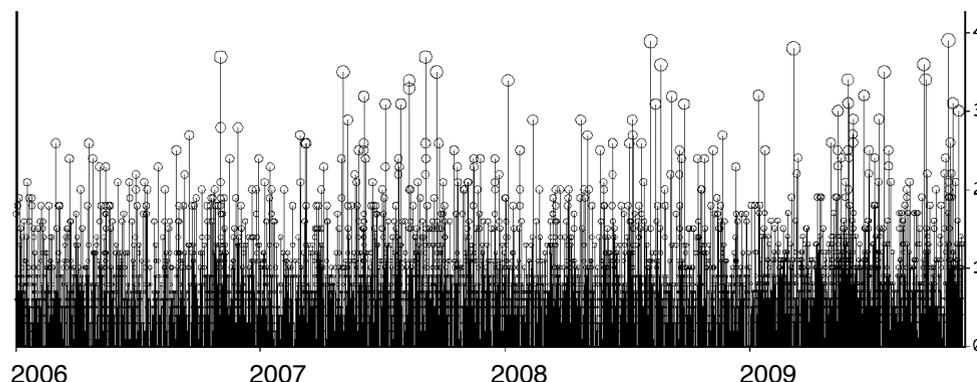


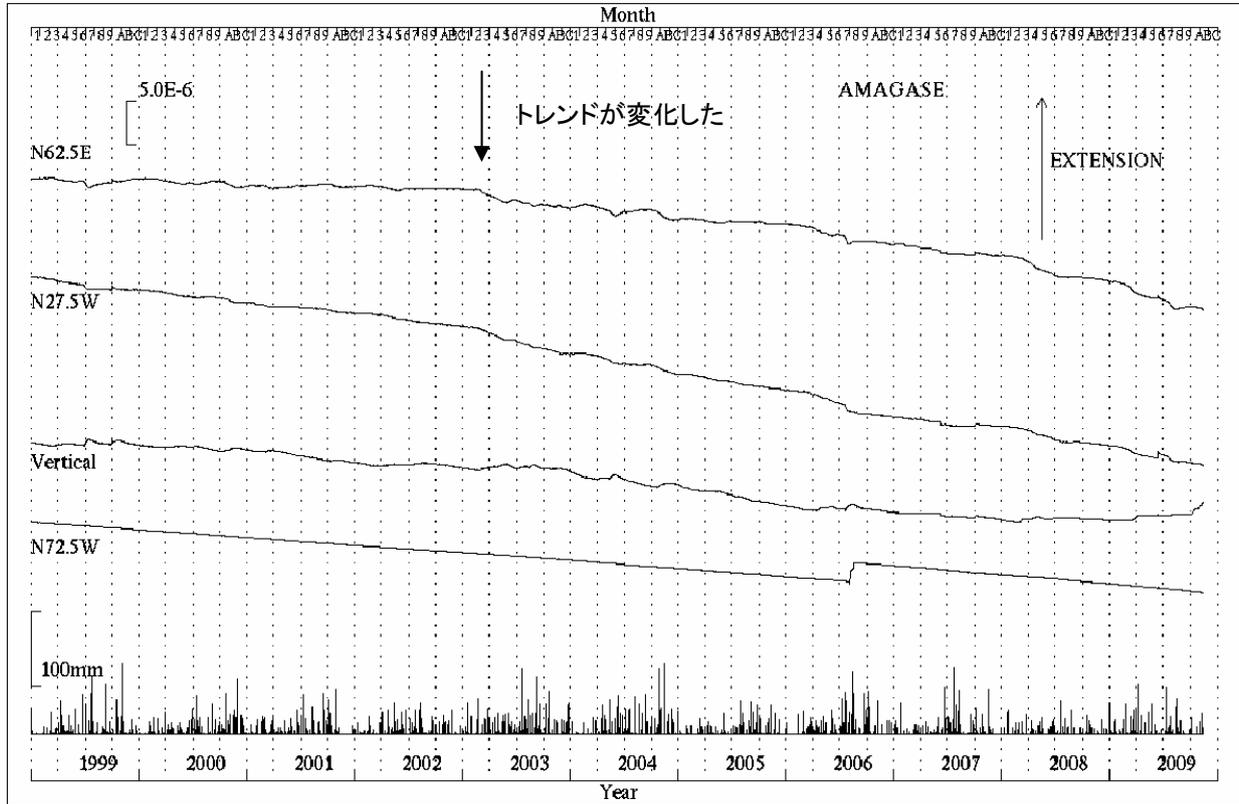
図3：
(上) 2006年1月1日～2009年11月17日。30km以浅。京都大学防災研究所地震予知研究センターによる、図1の矩形範囲内の積算地震発生数。赤い線はdeclusterしたカタログによる積算数。



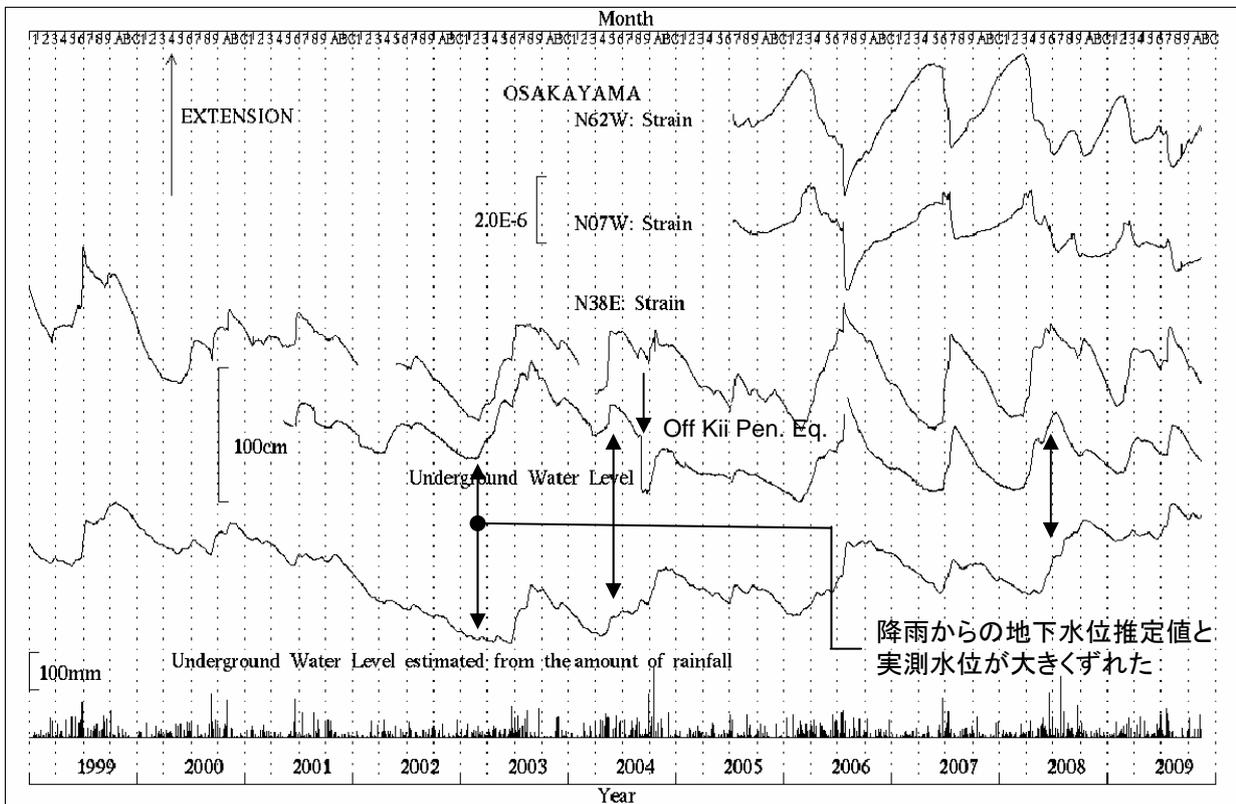
(下) MT図。Mは気象庁による。

近畿北部の地殻活動 ～地殻変動連続観測のトレンド変化～

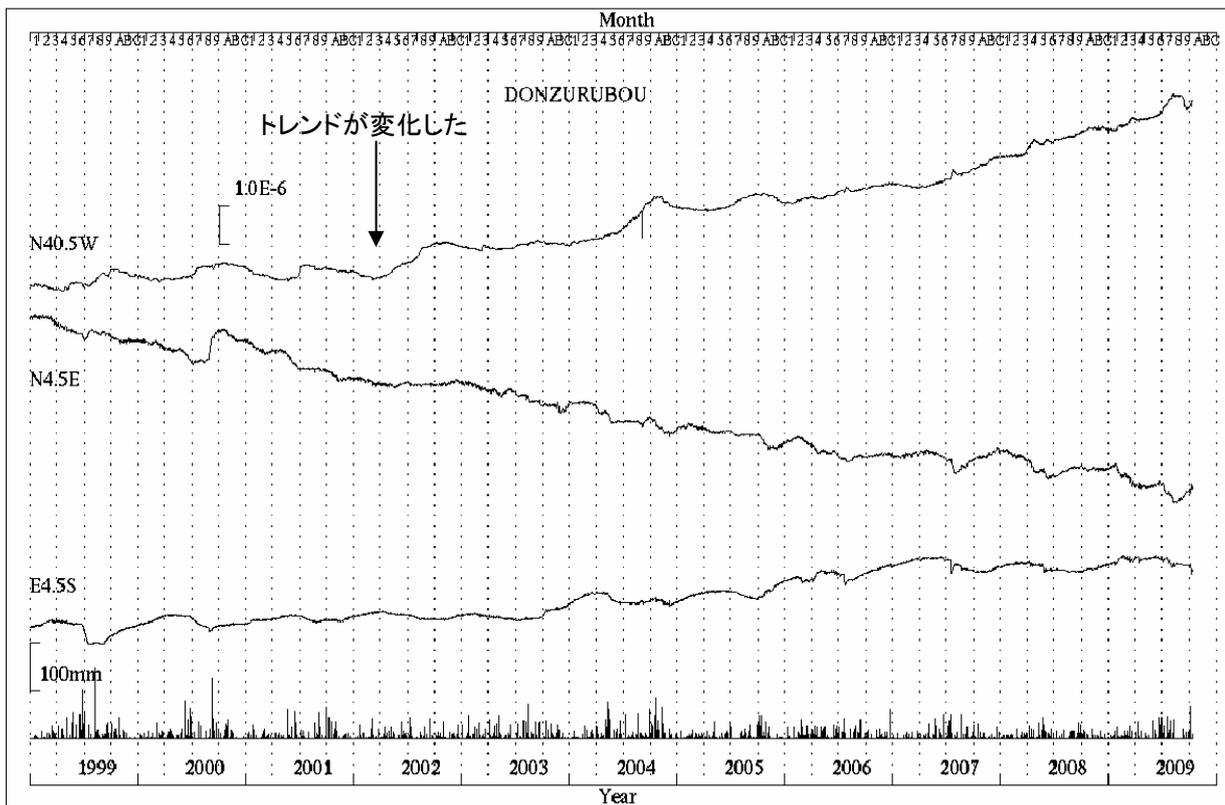
京都大学防災研究所地震予知研究センター



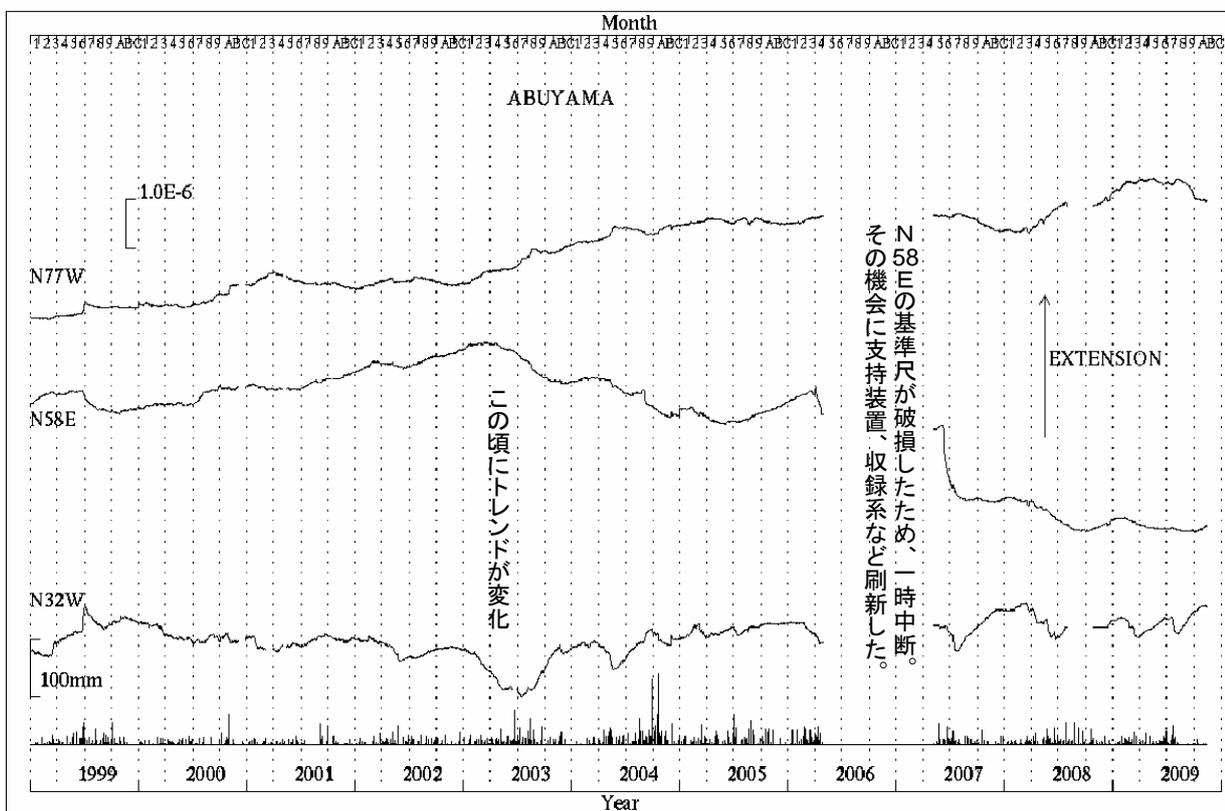
第1図 天ヶ瀬観測室における歪変化と日雨量（1999年1月～2009年11月）



第2図 逢坂山観測所における歪変化、地下水位と日雨量（1999年1月～2009年11月）



第3図 屯鶴峯観測所における歪変化と日雨量（1999年1月～2009年10月）

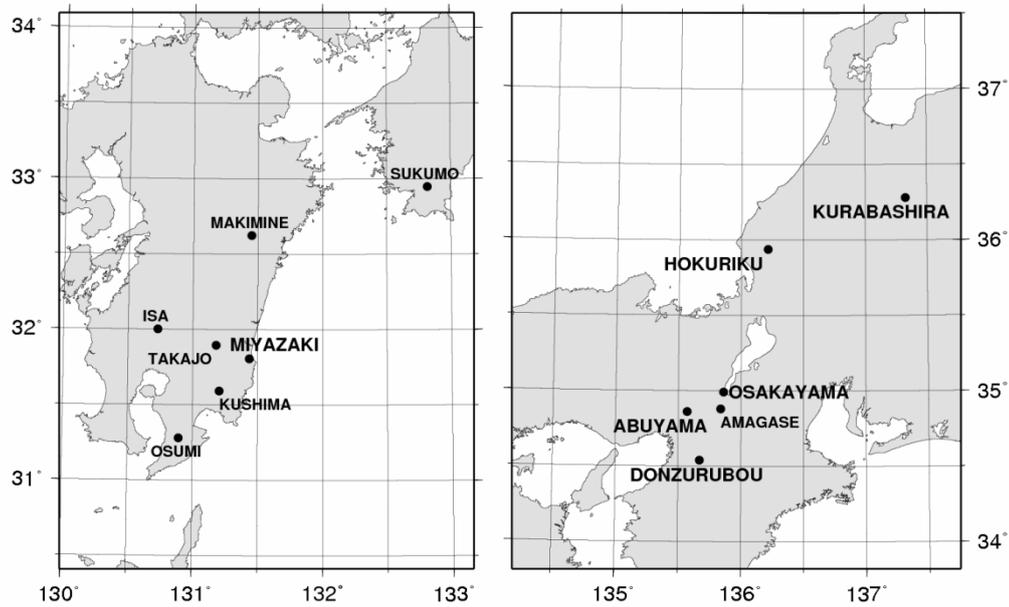


第4図 阿武山観測所における歪変化と日雨量（1999年1月～2009年11月）

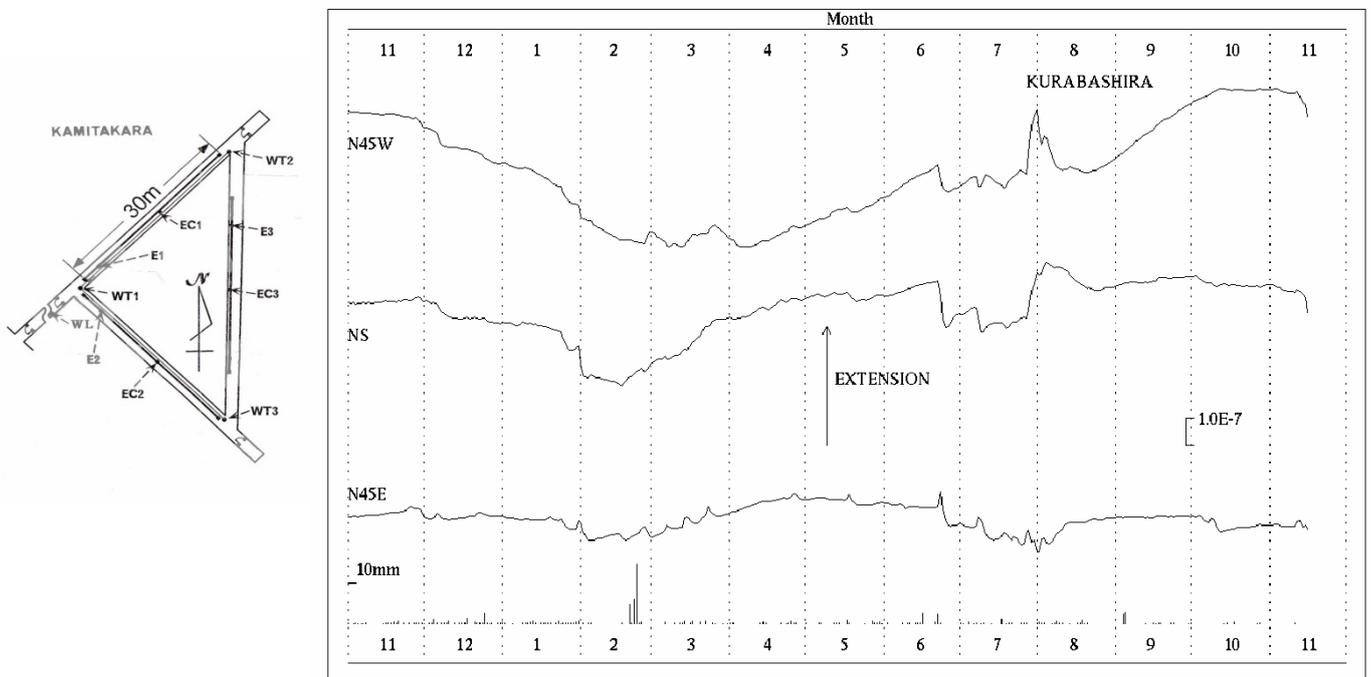
近畿地方横坑連続観測点4点の1999年1月～2009年11月の伸縮計記録を示す。
微小地震活動の静穏化と同時に歪速度が変化したため、その推移に注意している。

地殻活動総合観測線最近1年の観測結果

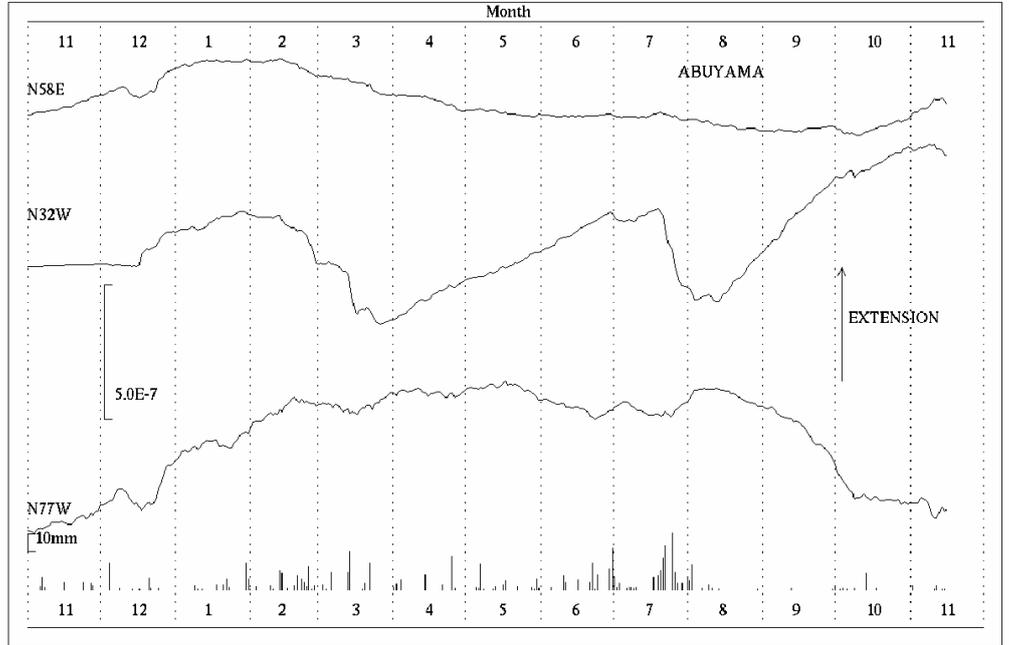
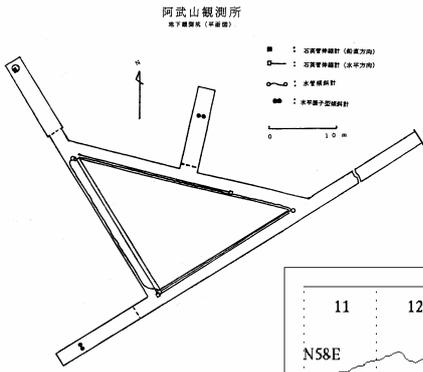
京都大学防災研究所地震予知研究センター



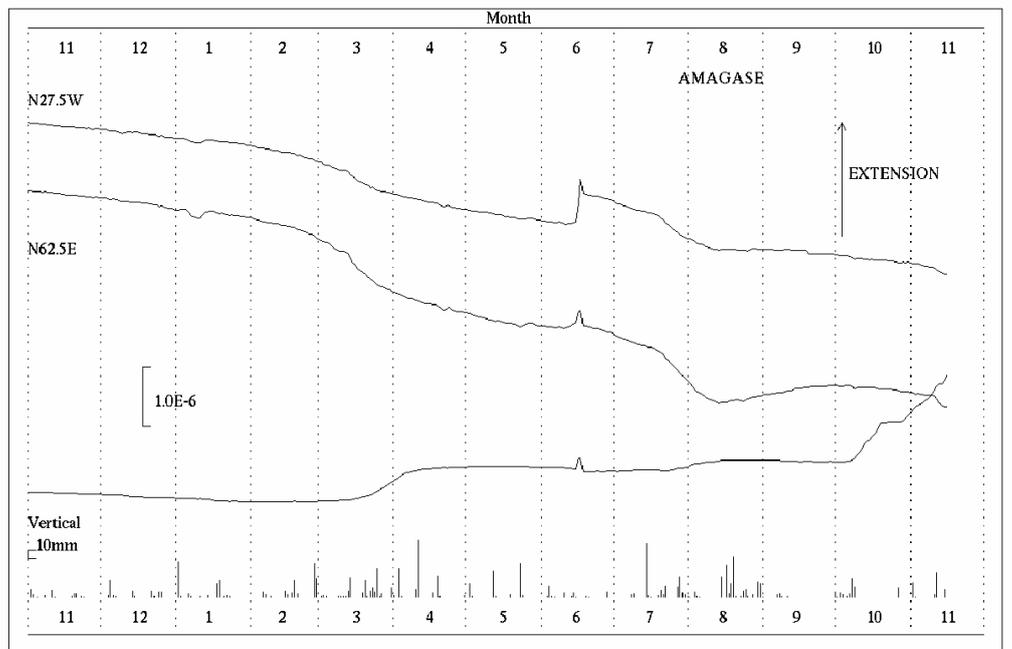
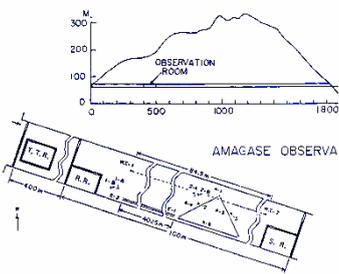
第1図 観測点位置図



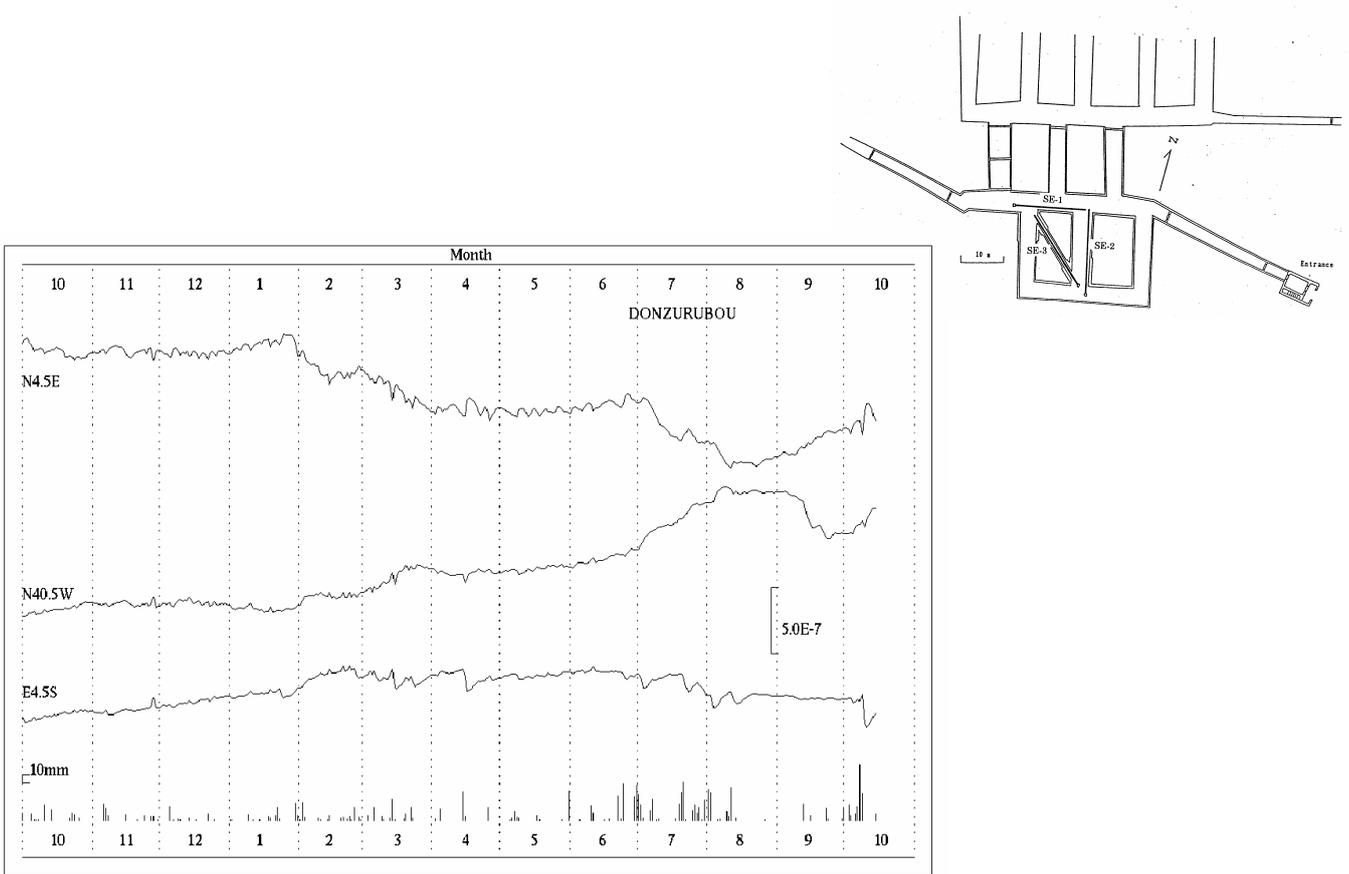
第2図 上宝観測所蔵柱観測室における歪変化と日雨量(2008年11月～2009年11月)



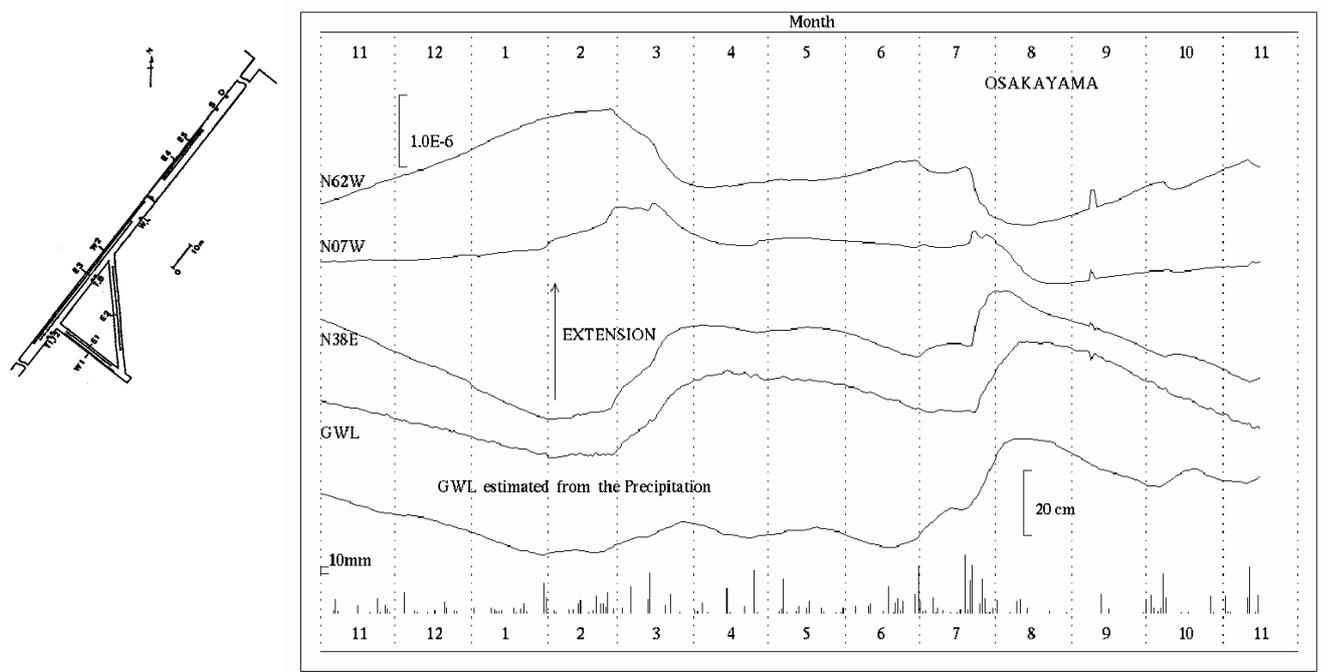
第3図 阿武山観測室における歪変化と日雨量(2008年11月~2009年11月)



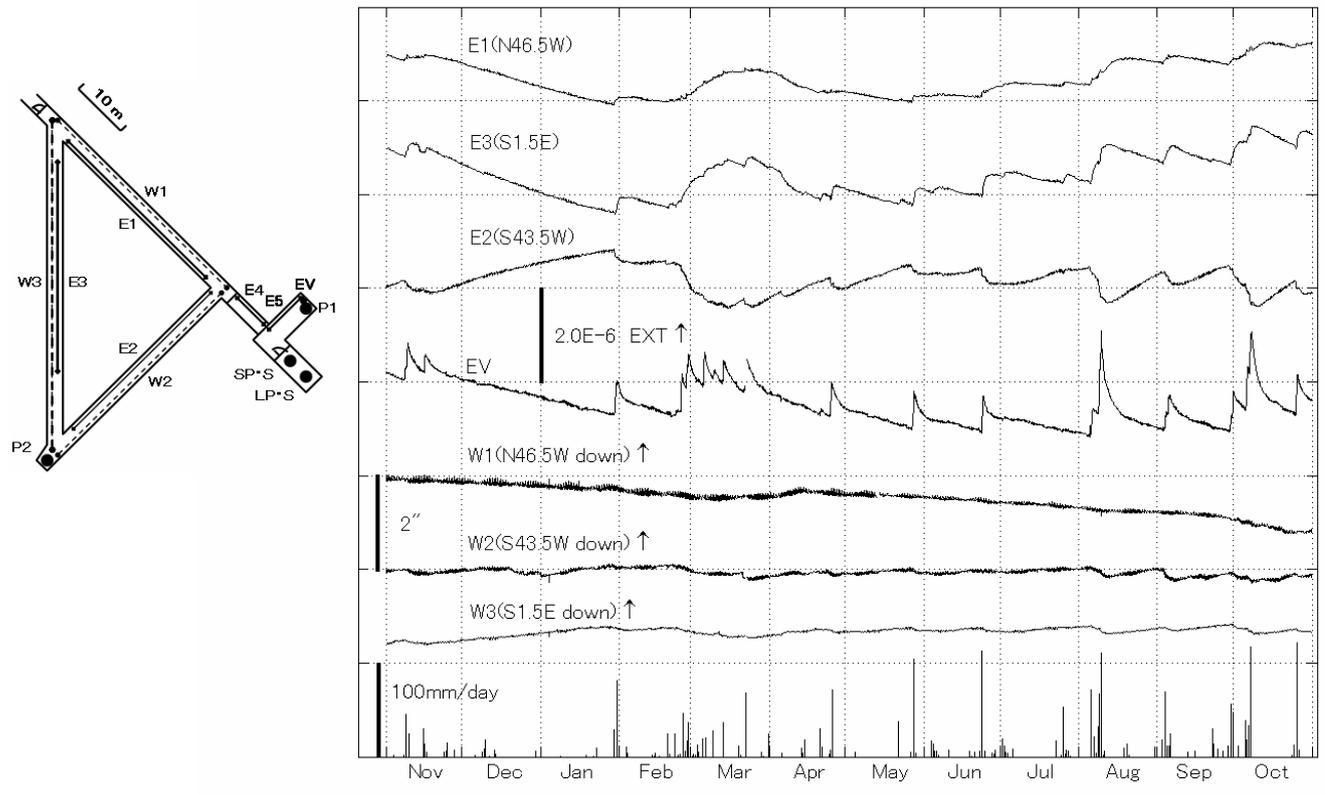
第4図 天ヶ瀬観測室における歪変化と日雨量(2008年11月~2009年11月)



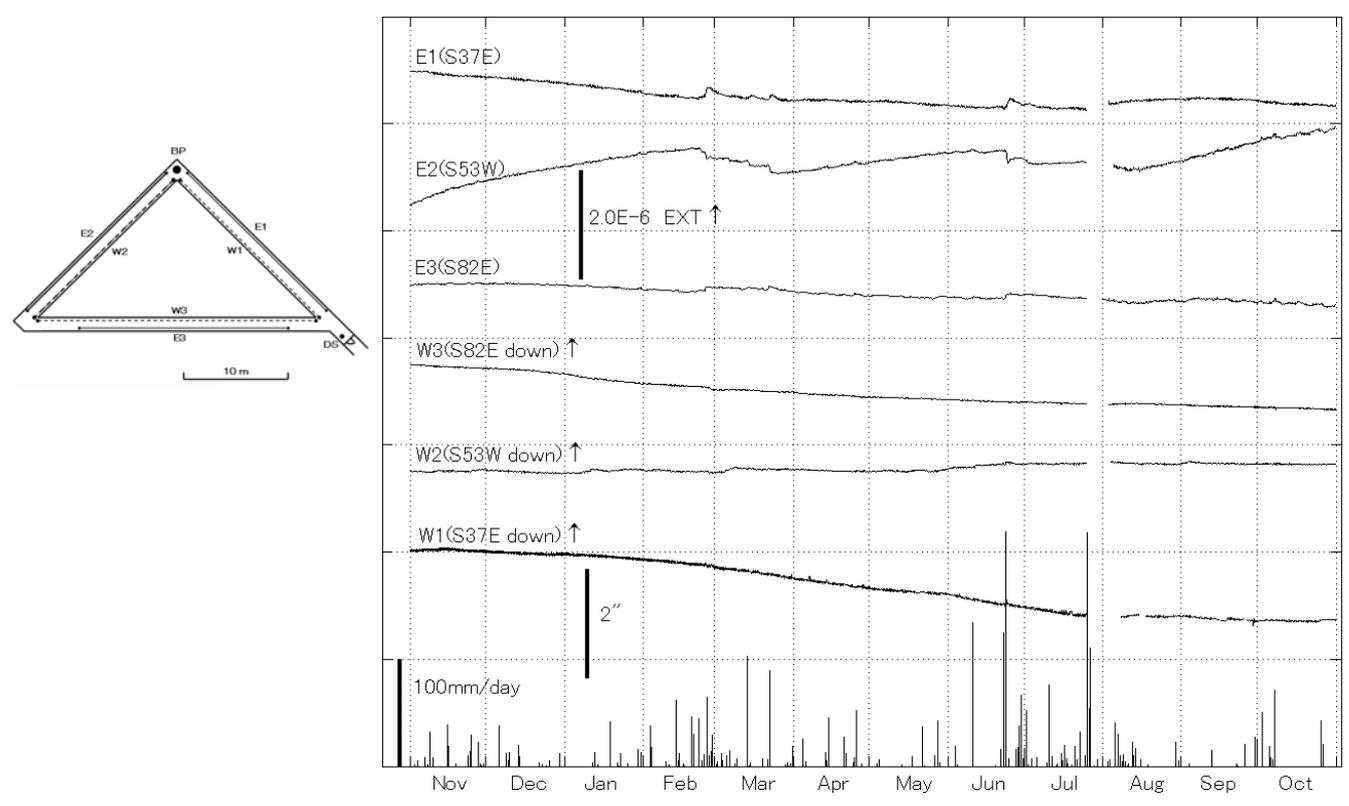
第5図 屯鶴峯観測所における歪変化と日雨量(2008年10月～2009年10月)



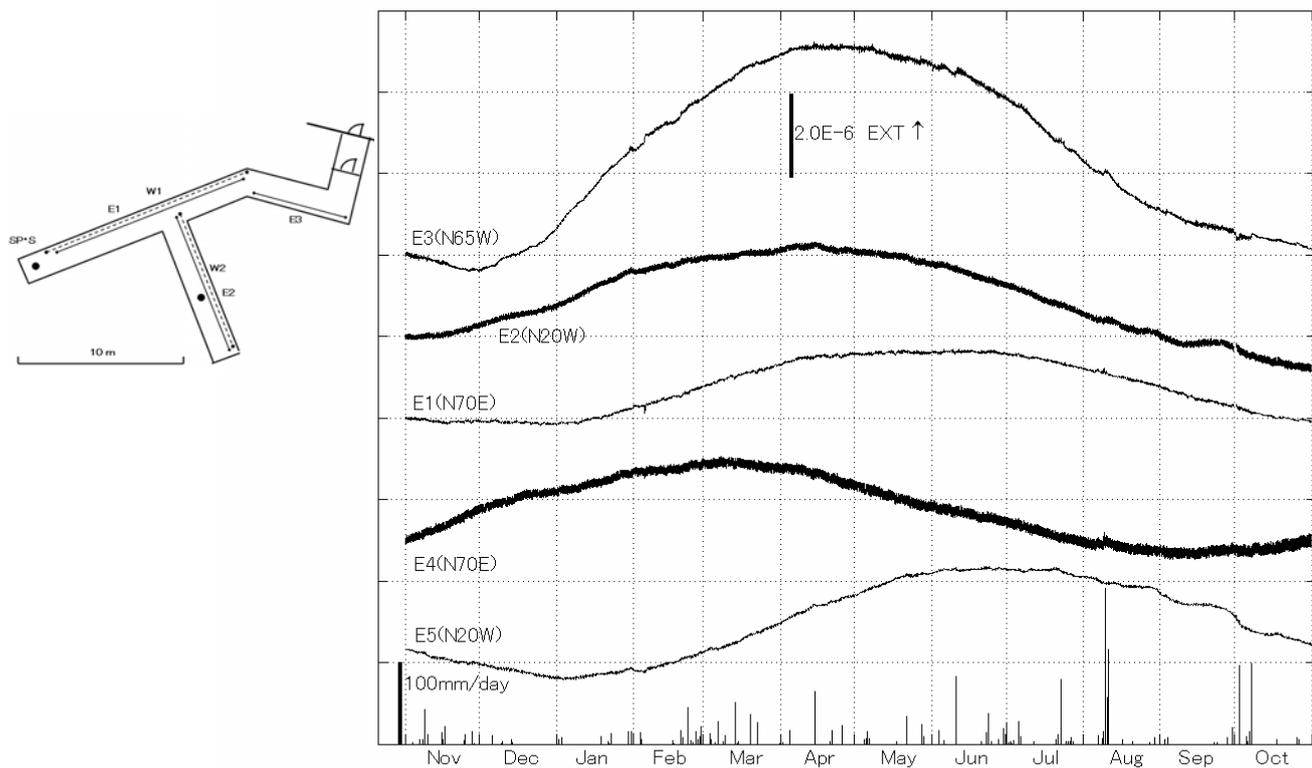
第6図 逢坂山観測所における歪変化、地下水位と日雨量(2008年11月～2009年11月)



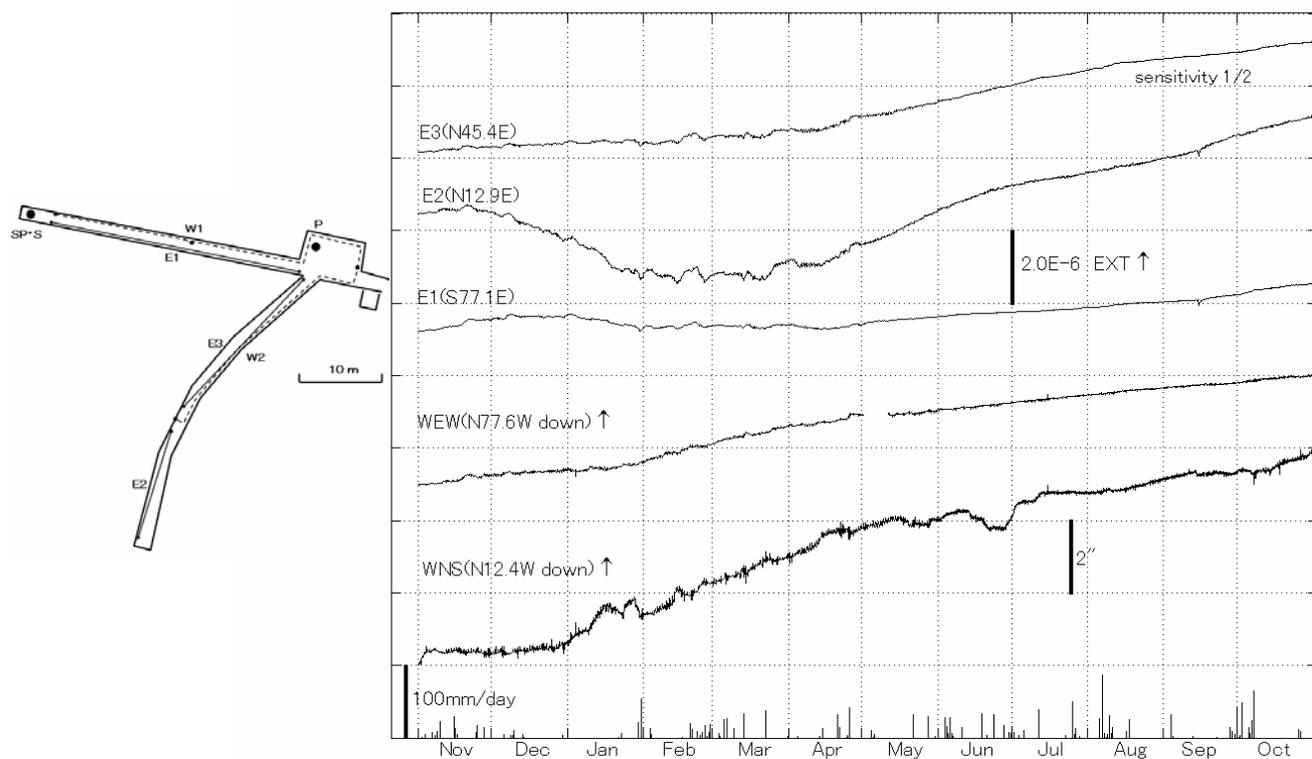
第7図 宮崎観測所における歪・傾斜変化と日雨量(2008年11月~2009年10月)



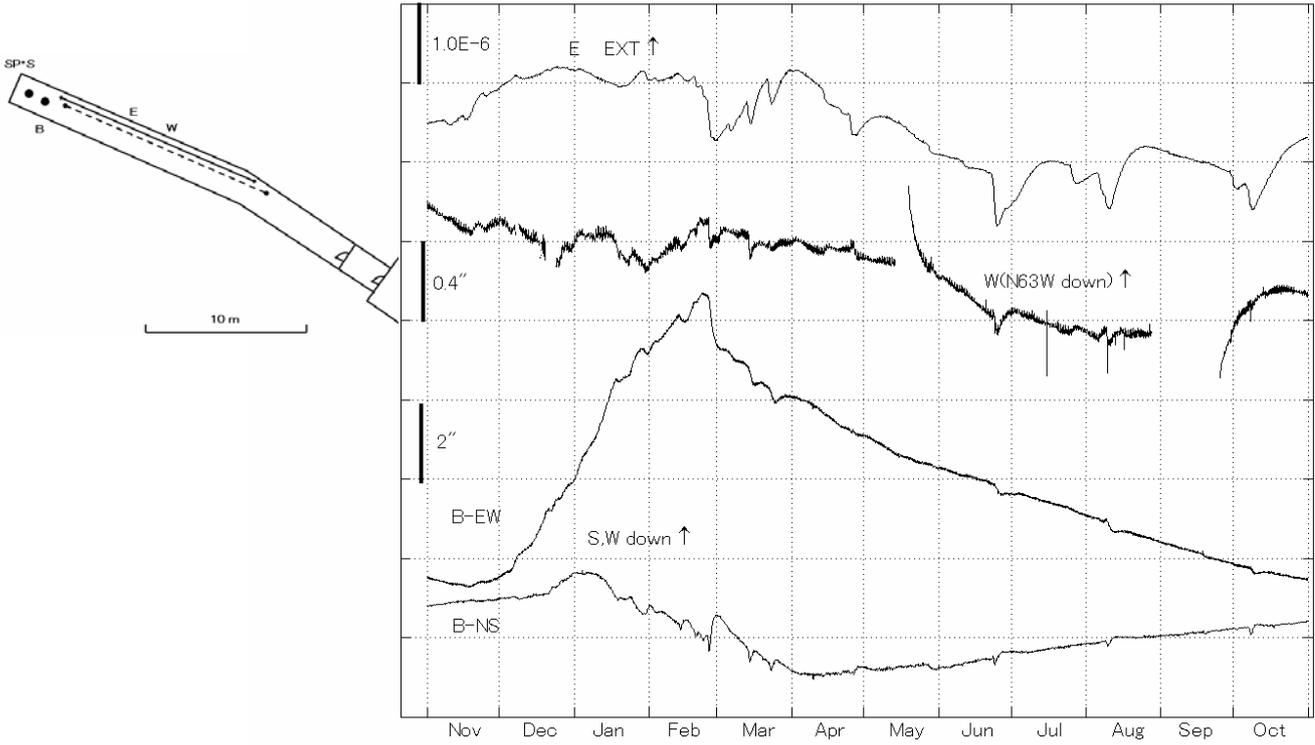
第8図 伊佐観測室における歪・傾斜変化と日雨量(2008年11月~2009年10月)



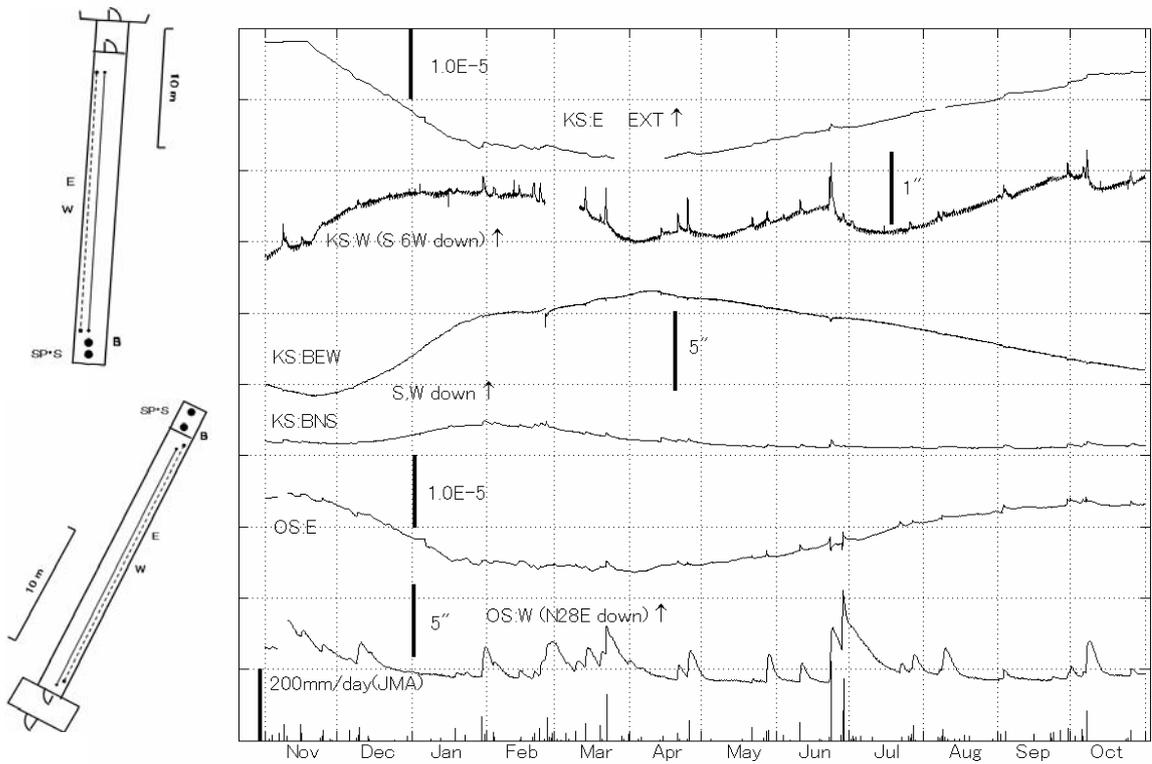
第9図 宿毛観測所における歪変化と日雨量 (2008年11月～2009年10月)



第10図 槇峰観測室における歪・傾斜変化と日雨量 (2008年11月～2009年10月)



第11図 高城観測室における歪変化と傾斜変化(2008年11月～2009年10月)



第12図 串間・大隈, 観測室における歪変化と傾斜変化(2008年10月～2009年11月)
 雨量はアメダス(鹿児島県田代)の日雨量